

I 事業の概要（地域の実情含む）

東日本大震災から8年が経過し、震災当時保育園児だった生徒が中学生になった。東日本大震災では、被災した家庭も多く、本校の体育館は避難所となった。校庭や隣接する市営球場にも仮設住宅が建った。本校の生徒も避難所生活や仮設住宅に住んだ経験を持つ生徒も多数いる。しかし、その後、その後、平成28年12月には校庭の仮設住宅が撤去され、校庭を使用することができるようになった。

遠野西中学校とは現在の3年生が1年生のときに交流会を行っている。2年生のときも交流会を実施する計画もあったが、実施することができなかった。6年前にも交流会を行っている。

本交流では、お互いの学校や地域のことを紹介することを通して、住んでいる地域について見つめ直すとともに、他の学校の良さに気づき、交流を通して友情を深めることをねらいとした。また、3年生の交流会では、交流活動(HUG)を通して、緊急時に対応する力を育てるとともに、自発的に活動に取り組むもうとする態度を育てることもねらいとして、交流会を実施した。

II 取組の概要

1 実践校

(1) 第1回交流会

大船渡市立末崎中学校 3年生 32名

遠野市立遠野西中学校 3年生 37名

(2) 第2回交流会

大船渡市立末崎中学校 2年生 22名

遠野市立遠野西中学校 2年生 37名

2 実施期日

第1回交流会 令和元年8月30日（金）

第2回交流会 令和元年10月4日（金）

3 実践内容

(1) 第1回交流会

HUG 演習を行うのは両校とも初めてである。そこで、岩手県学校防災アドバイザーの塚本清孝さんを講師にお願いし、HUG 演習を行った。両校の生徒が混じった1グループ7～8人、9グループで演習を実施した。

開会行事のあと、自己紹介を兼ねたアイスブレイクを行った。緊張感をほぐすことを目的に10分程度の時間で、実施した。



アイスブレイクのあとに、塚本さんの指導の下、HUG演習を開始した。最初に、HUG演習の説明をしてから活動に入った。



最初にカードを読み上げる人を決めてから、グループで演習を行った。最初は会話が少なかったが、だんだんと話し合うことができるようになった。演習終了後、各グループの制作したものを見学し、感想を発表しあった。



<各グループの見学>



<感想発表>

以下、両校生徒の感想である。本校の生徒は8年前のことを思い出し、当時のことを振り返ることができた人もいた。

<末崎中学校>

- HUG を通して、避難所を運営することは来る人、一人一人のことを考えなくてはならないので、難しいと思いました。8年前の自分は恐ろしくて自分のことしか考えられなかったもので、周りの人たちのことも考えようと思いました。遠野西中の人たちとやってみて、最初は話すことができなかったけれども、やっていくうちに話せて協力することができました。
- HUG では自分たちだけで話し合って避難者の配置を決めたりすることが難しかったです。8年前も避難所で大変だったことを思い出しました。遠野西中の人たちとは2年ぶりに会ってみて、みんな元気そうで良かったです。緊張してあまり話せなかったけれども、合唱も聞けて本当にうれしかったです。
- HUG を実際にやってみて、様々な要望に応えたりうまく並べ替えたりするのが凄く難しかったです。8年前、実際に避難所でボランティアとしていろいろなことをして下さった方々の大変さが分かりました。初めは緊張していたけれども、遠野西中の人たちと協力して作業し、うまくできたので良かったです。



<遠野西中学校>

- 自分たちは避難所の経験がなく、こうして避難所について考えることは初めてでよい経験になりました。HUG だけでもパニックになり、とても大変なので実際に起こったら対処できないと思います。今回の体験を糧に災害に向き合いたいと思います。
- 久しぶりに末崎中みなさんと会って、初めはすごく緊張していました。でも、だんだんと打ち解けて、楽しい時間を過ごすことができました。また、HUG ではわたしはカードを読む係でしたが、みんなで相談し合っ、問題を解決する姿を見て、「すごいな」と思いました。交流会、とても楽しかったです。
- 今日、HUG を体験した感想は、初めはどこをどうしたら分からず、なかなか進みませんでしたが、みんなで意見を出し合っ、集中していくうちに本当に避難所にいるような忙しさや緊張感を体験することができました。末崎中みなさんとこのような体験ができてよかったです。



(2) 第2回交流会

遠野西中学校の体育館で、学校紹介と合唱・応援の交流を行った。最初に、開会行事を行った後、各学校の紹介をそれぞれ行った。本校は大船渡の紹介やわかめ学習を、遠野西中学校からは運動会の様子や企業見学、職場体験のことを紹介し、各学校の様子を伝えあった。



その後、応援・合唱の交流を行った。合唱は、末崎中「YELL」、遠野西中「あなたへ」を歌い、各校の応援を紹介した。



＜末崎中学校の合唱＞



＜遠野西中学校の応援＞

本校の生徒は練習した成果を出し切ることができた。また、遠野西中学校の合唱のまとまりのある合唱や体を使った動きのある応援を見て、自分たちの応援、合唱に取り入れようと感じた生徒も多かった。

交流会の後、全員で集合写真を撮り、遠野西中学校の生徒に見送られて帰校した。



＜交流会後の集合写真＞

＜本校生徒の感想＞

- ・遠野西中学校と交流して、遠野西中学校の応援はともに見応えがあるなど感じました。いろいろなリズムや振り付けがありました。この応援を参考に何か自分たちの応援にとりいれていければよいと思いました。合唱は声がきれいにそろっていて、私たちももっと練習して合唱の完成度を高めていこうと感じさせてくれる歌声でした。
- ・遠野西中学校との交流をして、応援のとき、一人一人が楽しそうに応援していたので、まねしたいと思いました。合唱では明るい表情で歌っていて、一人一人の気持ちが伝わってきました。応援でも合唱でも気持ちが大切だとわかりました。
- ・遠野西中学校との交流では末崎中学校が先に発表することになっていたため、迫力のある応援や少ない人数での大きな声量の合唱を意識して頑張りました。学校紹介も大船渡、末崎、末崎中学校のことをしっかりと伝えられました。短い時間だったけどとてもよい交流会になったと思いました。

Ⅲ 取組の成果と課題

1 成果

- (1) 第1回交流会で塚本さんの指導の下、HUGを実施することができたことは、HUGの経験がない教員にとって参考になった。また、本校の生徒は8年前のことを振り返ることができ、遠野西中学校の生徒も災害時について考えるよい機会となった。生徒はコミュニケーションをとることの難しさや話し合うことの大切さに気づくことができた。
- (2) 第2回交流会の後、生徒たちから「今度、交流するときはこうしたい」など、交流に対する意欲が高まった。生徒には経験を積ませることが大切だということを教職員で認識することができた。

2 課題

- (1) 第1回の交流会では、HUGを実施する際にアイスブレイクの時間が十分でなかったために、最初うまく話し合うことができないグループもあった。事前にレクなどを行ってからHUGを実施すればもっと活発な活動になったと反省している。
- (2) 第2回交流会では、交流する時間が短かったため個人というよりは学校としての交流になってしまった。質問力を高め学校紹介などで質問し合えるような交流ができれば感じた。そのためにも、日常の授業の中で、言語活動を十分に行う必要性を感じた。